

# 香港における中国人学習者の学習スタイルに関する調査

板井美佐

## 要 旨

言語習得プロセス上の個人差を説明する学習スタイルは、学習者の日本語学習の成否に影響を与える要因の1つである。国内・国外の日本語教育の現場において、学習者の学習スタイルと教師の指導スタイルのズレが原因で、期待通りの学習成果が得られないだけでなく、両者の間にさまざまな葛藤や衝突が起きていることが報告されている。本稿では、香港における中国人学習者と日本語教師の学習スタイルを調査し、その結果を先行研究と比較しながら、両者の学習スタイル差から起こりうる問題を明らかにし、その調整方法について考察した。

【キーワード】 言語習得、学習スタイル、指導スタイル

## The Language Learning Styles of Chinese Learners in Hong Kong

Itai, Misa

### Abstract

The language learning styles explaining the individual differences are one of the factors which affects success of Japanese language learning in the process of language learning acquisition. At the Japanese classrooms in Japan as well as in overseas countries, some researchers reported that learning styles differences between students and instructors cause various conflicts between them as well as unsuccessful learning. This study conducted a survey of learning styles regarding Chinese learners in Hong Kong and Japanese language instructors in Japan, compared the results of them with the previous work, showed the problems which come from the differences between them, and suggested the way of it's coordination.

## 1. はじめに

日本の大学機関で日本語を教えていた時に、日本と同じ漢字文化圏の中国人学習者が学習上伸び悩んでいる原因は、一部教師の日本語教育に対するビリーフと学習者のビリーフとのズレに起因するのではないかと考えた。その後、中国上海、香港で日本語を教える機会に恵まれ、伝統的教授法で学んできた学習者は、コミュニカティブな要素を盛り込んだ教授法に対する受け入れ態勢ができていないのではないかと考えるようになった。ここから逆に、だから香港人学習者には教師主導の伝統的教授法が適しているのだと断言する現場の教師も少なくない。たとえば仮に、学習者は日本語学習1年後に日本へ留学するとする。学習者は日本へ行けば、必然的に日本語を使わざるをえない。だから、日本語を使う機会が多くない香港で言語運用能力を伸ばす努力を学習者に求めるより、言語知識のインプットを十分に与えることが最小の努力で最大の効果を上げると大学側が考えているとする。カリキュラム編成の中心を大学に求めていくとしても、そのカリキュラムは学習者一人一人の学習経験の発展、開発、展開なのである。これらが、カリキュラムとして展開されていくにあたっては、学習者の具体的状況が最大限に尊重されていくべきではないだろうか。学習者が詰め込みのスケジュールで学習したにもかかわらず、一向に話せるようにならないという不満を抱えている場合はなおさらのことである。しかし、現状を考え、現行のカリキュラム実践の中で、学習者の日本語運用能力の向上をどのようにしたら、どの程度実現していくことが可能であろうか。板井(2001)では、この課題と取り組む前に、香港の中国人学習者の日本語教育に対するビリーフに影響を与えていると考えられるさまざまな要因、学習動機、学習ストラテジー、学習環境などについての調査を実施し、結果を考察・分析したが、まだ学習スタイルについての調査が行われていない。そこで、本稿では、この調査結果を考察・分析することで、香港における中国人学習者のビリーフをめぐる要因に関する横断研究を締めくくるとする。

## 2. 先行研究

### 2. 1 中国人の学習スタイル

人種の垣塙と言われるアメリカのESL/EFL<sup>(1)</sup>の現場では、学習者が教師の教授スタイルと異なった学習スタイルを持ち、しかも教師が両者のスタイル差の背後にある文化的要因を理解していない場合に、両者の間にさまざまな葛藤や衝突が起きている(Oxford, Ehrman & Lavine, 1991)。

教師は、自分の認知スキルや学習スタイルと似ている学習者を重視する傾向が見られることから、学習スタイルの問題は、単に学習者側の問題であるだけでなく、教師側の問題でもあると考えられる。Oxford(1995)は、言語学習スタイルを異文化という側面から理解していくことが解決の鍵であるとし、我々教師が学習者に最高の言語教育を提供したいと考えているのであれば、学習者の学習スタイルを表面的なレベルではなく、文化的に深いレベルで理解するべき

であると指摘している。

学習スタイルとは、Oxford & Lavine (1992) によれば、学習者が新しい言語を習得する際に使用する一般的なアプローチであり、Scarcella (1990) は、これを学習者が感じたり、記憶したり、考えたりするやり方に影響を与える認知的、相互作用的なパターンであると定義している。

学習スタイルは、強い文化的構成要素から成るとする立場に立つ Oxford & Anderson (1995) は、学習スタイルと文化の結びつきに注目し、文化以外の要素の影響を考慮しながらも、文化が学習スタイルにおいて重要な役割を演じていると述べている。文化は人々の無意識的な深層部分で人々の考え方や行動に影響を与える。一方、学習ストラテジーは、目標言語を内面化するにあたって学習成果を改善するために、学習者が意識的に使用する特定の行動や技術であり、特定の学習ストラテジーは、学習者が文化的に影響を受けた学習スタイルと一致しているという理由でしばしば選択される (Oxford, 1990)。

Oxford & Anderson (1995) は、中国人学習者の学習スタイルに関する先行研究をまとめているが、出身地域 (中国大陸、台湾、香港など) 別の先行研究はわずかである。Oxford & Burry-Stock (1995) は、中国人は正確さを求めることから、学習スタイルは「分析型 (analytic)」だと報告している。Nelson (1995) によれば、中国人学習者は、「場独立型 (field independence)」であるが、この点について研究者の意見は相互に矛盾し、一致していない。Oxford & Anderson (1995) にも指摘しているように、中国人学習者は「場依存 (field dependence)」と「場独立」の2つの要素を併せ持っているため、認知スタイルにおいて柔軟性があると考えたほうがいいかもしれない。Oxford & Burry-Stock (1995) は、台湾人と中国大陸の中国人は部分的に「具体連続型 (concrete-sequential)」の学習ストラテジーを使用すると報告している。Su (1995) は、中国人学習者は「内向型 (introverted)」に分類されるとしながらも、強い協調性と集団への関心を示すと述べている。この中国人学習者の協調性について、Nelson (1995) は、中国人は、関係、集団の和合、結合力の維持によって、互いに協力し合うが、それは外部からわかるようなあからさまなやり方ではないと報告している。Reid (1987) の調査によれば、中国人学習者は強い「視覚型 (visual)」で、かつ「聴覚型 (auditory)」及び「操作型 (hands-on)」学習を非常に好む。一方、Su (1995) は、中国人学習者が複数の知覚学習スタイルを持つこと、「聴覚型」学習より「操作型」学習を好むこと、この2つのスタイルモードは「視覚型」モードより高いことを指摘している。

## 2. 2 日本人の学習スタイル

Oxford & Anderson (1995) は、日本人学習者の学習スタイルに関する先行研究をまとめているので、ここではそのいくつかを紹介する。Oxford & Burry-Stock (1995) は、日本人を「場依存型」であるとしているが、Bean (1990) は、「場独立型」であるとし、先行研究間で意見の一致を見ていない。Oxford et al. (1992) は、日本人学習者が教師による学生のプライバシー尊重

を望み、自分の感情を露にせず、分析的考え方に基づいて判断を行うため、「思考型 (thinking)」であり、常に正確さを求めるあまり会話でリスクを犯したから、「内省的 (reflective)」であると判断している。Oxford & Burry-Stock (1995) によれば、EFL の日本人学習者の学習ストラテジーは、部分的に「具体連続型」であるという。Harshbarger et al. (1986) は、日本人学習者は「内省的」であるとしながらも、教師から常に速やかな誤用訂正を望み、複数の正答を好まないことから、「閉鎖指向型 (closure-oriented)」であり、また、クラスの中では静かで内気であること、意見や感情を表に表したから、「内向的」な傾向があるとし、その原因を伝統的な文化が集団の資格、協力、団結、そして面子保持を重視していたことに求めている。また、Reid (1987) は、日本人学習者は特定の知覚学習スタイルを持たないと判断している。

### 3. 調査概要

#### 3. 1 調査対象・方法

香港における中国人学習者と日本語教師<sup>(2)</sup>の学習スタイルを把握するツールとして、本稿では、Oxford (1993) の SAS (Style Analysis Survey) を使用した。

英語版 SAS の調査は、香港の大学機関で日本語を学んでいる中国人学習者 242 名 (回収できたもの) を対象に行った。調査表は香港に送付し、2001 年 3 月から 5 月にかけて各大学で実施した。日本語版 SAS (筆者による翻訳) の調査は、日本の首都圏大学機関で外国人留学生を対象として日本語教育を行っている常勤または非常勤の教師 29 名 (回収できたもの) を対象に行った。調査表は同年同期間中に大学機関で配布し、後日回収した。

#### 3. 2 調査表の内容

調査表は「活動」と称される 5 つの構成部分から成る。「活動 1」は、学習や仕事の際に使用する知覚の好みを調べるためのもので、問 1 ~ 10 が「視覚型 (visual)」、問 11 ~ 20 が「聴覚型 (auditory)」、問 21 ~ 30 が「操作型 (hands-on)」に関する質問である。「活動 2」は、人との付き合い方の好みを調べるもので、問 31 ~ 40 が「外向型 (extroverted)」、問 41 ~ 50 が「内向型 (introverted)」に関する質問である。「活動 3」は、可能性の処理方法の好みを調べるもので、問 51 ~ 60 が「直観型 (intuitive)」、問 61 ~ 70 が「具体連続型 (concrete-sequential)」に関する質問である。「活動 4」は、活動 (タスク) へのアプローチや決定方法の好みを調べるもので、問 71 ~ 80 が「閉鎖指向型 (closure-oriented)」、問 81 ~ 90 が「開放型 (open)」に関する質問である。「活動 5」は、考えの扱い方を調べるもので、問 91 ~ 100 が「包括型 (global)」、問 101 ~ 110 が「分析型 (analytic)」に関する質問である。回答者は、合計 110 項目について、質問ごとに「いつも (3)」「たいてい (2)」「ときどき (1)」「一度もない (0)」の 4 件法で尋ねられる。

#### 4. 調査結果

調査の結果は、中国人学習者と日本語教師ごとに各型別と各項目別の平均値と標準偏差(SD)を出し、この2群について5%水準でT検定(両側検定)を行い、有意差の有無を確認した。この結果を表1、2に示した。

##### 4. 1 活動1の結果

表1. 各活動の平均、SD及びp値

	中国人学生		日本語教師		p 値
	平均	S D	平均	S D	
視覚型	1.70	0.87	1.60	0.80	p > .05
聴覚型	1.49	0.82	1.44	0.78	p > .05
操作型	1.58	0.83	1.37	0.88	p < .001
外向型	1.65	0.89	1.67	0.78	p > .05
内向型	1.37	0.83	1.33	0.87	p > .05
直観型	1.61	0.73	1.60	0.80	p > .05
具体連続型	1.56	0.77	1.29	0.78	p < .001
閉鎖指向型	1.72	0.89	1.73	0.77	p > .05
開放型	1.53	0.84	1.48	0.84	p > .05
包括型	1.69	0.73	1.76	0.64	p > .05
分析型	1.53	0.72	1.37	0.66	p < .001

表2. 有意差の出た各項目の平均、SD及びp値

項目番号	中国人学生		日本語教師		p 値	項目番号	中国人学生		日本語教師		p 値
	平均	S D	平均	S D			平均	S D	平均	S D	
item4	1.57	0.76	1.28	0.59	p < .05	item64	1.56	0.68	1.14	0.52	p < .01
item8	1.74	0.86	1.24	0.64	p < .01	item66	1.91	0.70	1.55	0.63	p < .01
item9	1.58	0.70	1.24	0.64	p < .01	item68	1.33	0.76	0.83	0.60	p < .01
item13	1.56	0.75	1.14	0.64	p < .01	item70	0.87	0.85	0.45	0.63	p < .01
item23	1.53	0.86	0.83	0.85	p < .001	item73	1.72	0.84	2.17	0.72	p < .01
item30	1.44	0.93	0.79	0.94	p < .001	item83	1.33	0.81	1.72	0.80	p < .01
item33	1.85	0.77	1.48	0.69	p < .01	item86	0.88	0.81	0.41	0.57	p < .01
item34	1.50	0.81	1.97	0.78	p < .01	item89	1.46	0.78	0.79	0.62	p < .001
item35	1.55	0.64	1.10	0.56	p < .001	item99	1.53	0.60	1.76	0.44	p < .05
item58	1.71	0.69	1.07	0.65	p < .001	item104	1.72	0.70	1.31	0.47	p < .01
item60	1.41	0.67	1.69	0.81	p < .05	item105	1.74	0.66	1.45	0.51	p < .01
item61	1.74	0.69	1.21	0.82	p < .001	item107	1.41	0.71	1.00	0.76	p < .01
item63	1.73	1.68	1.45	0.91	p < .05						

Oxford (1993) は、「視覚型」の人間はクラスで視覚に頼り、本やビデオなどの視覚的手段を使うと最もよく学べると説明している。「聴覚型」の人間は討論、テープ、ロールプレイ、講義などの聞いたり話したりする活動を好む。「操作型」の人間はプロジェクト、物を使って行うこと、ゲーム、模型作り、実験などを行いながら、教室の中を移動することから多くを学べる。

中国人学習者は、「視覚型」の傾向が最も強く、「操作型」がそれに続き、「聴覚型」の傾向が最も低い。一方、日本語教師は、「視覚型」の傾向が最も強く、「聴覚型」がそれに続き、「操作型」の傾向が最も低い。中国人学習者は、日本語教師と比べると、「操作型」を好む傾向が有意に高いことがわかる。

次は、項目ごとに見ていく。中国人学習者と日本語教師の間に有意差があるのは、「視覚型」項目では、「他の方法より、ビデオやテレビを使った学習の方が好きだ」「周囲の雑音で気が散る」「人が言っていることを理解するためには、その人の方を見る必要がある」の3項目で、中国人学習者の点数が日本語教師よりも高い。「聴覚型」項目では、「作業（仕事）には口頭での指示が必要だ」の項目で、中国人学習者は日本語教師の2倍近く高い点数となっている。「操作型」項目では、「黙読しているとき唇を動かす」「切手やコインやカードなどを集めるのが好きだ」の2項目で、中国人学習者の方が点数が高かった。

#### 4. 2 活動2の結果

Oxford (1993) は、「外向型」の人間は、クラスではゲーム、会話、討論、ディベート、ロールプレイ、シミュレーションなどのような社会的、相互作用のあるさまざまな活動を楽しむと説明している。一方、「内向型」の人間は、勉強、読書、コンピューター学習などの独立的な学習か、よく知っている人といっしょに行うことを楽しむ。

中国人学習者、日本人教師ともに「外向型」傾向の方が「内向型」より強く、しかもよく似た傾向を示している。

次は、項目ごとに見ていく。「外向型」では、中国人学習者の方が有意に点数が高い項目は、「グループでいるのが好きだ」「他の人の近況をよく知っている」の2項目であった。一方、日本語教師の方が有意に点数が高い項目は、「知らない人と話すのは平気だ」の項目であった。

#### 4. 3 活動3の結果

Oxford (1993) は、「直観型」の人間は、クラスでは未来指向で、話題から法則を探し出すことにたけ、可能性について考えることが好きで、抽象的な指向を楽しみ、段階的な教育を嫌うと説明している。一方、「具体連続型」の人間は、クラスでは現実指向型で一步一步進んでいくような活動を好み、常に学習がどこへ向かっているのかを知りたがる。

中国人学習者は「直観型」と「具体連続型」の点差が僅少の「両型」であるが、日本語教師は「直観型」傾向の方が「具体連続型」傾向より強い。

次は、項目ごとに見ていく。「直観型」の項目では、「私は独創的な人だと思う」の項目で、中国人学習者の方が日本語教師よりかなり有意に高く、「教師や上司が初めの計画を変更してもかまわない」の項目で、日本語教師の方が中国人学習者より有意に高かった。「具体連続型」の項目では、「自分は経験豊富な方だと思う」「私は思慮深い人に心を引かれる」「新しくて検証されていない考えより現実的なことを好む」「授業や仕事ははっきりした計画に従って進んでほしい」「隠れた意味を見つけることはうまくいかないし、私には向いていないと思う」「将来について考えるのは無意味だと思う」のすべての項目で、中国人学習者の点数の方が日本人教師より有意に高かった。

#### 4. 4 活動4の結果

Oxford (1993) は、「閉鎖指向型」の人間は、クラスではすべての学習活動に注目し、締め切りを守り、課題について事前に計画を立て、明確な指示を求めると説明している。一方、「開放型」は発見学習を楽しみ、リラックスし、締め切りや規則に縛られずに学習を楽しむことを好む。調査結果は、中国人学習者、日本語教師ともに「閉鎖指向型」傾向のほうが「開放型」より強かった。

次は、項目ごとに見ていく。「閉鎖指向型」では、「必要なときはリストを作る」の項目で、日本語教師の点数の方が中国人学習者より有意に高かった。「開放型」では、日本語教師の点数の方が中国人学習者より有意に高かった項目は、「杓子定規だといらいらする」で、中国人学習者の方が有意に高かった項目は、「自分にとって締め切りは不自然だし、役立つとは思わない」「仕事のリストがあると、疲れるし、あせってしまう」であった。

#### 4. 5 活動5の結果

Oxford (1993) は、「包括型」の人間は、クラスでは中心的な考えを把握し、意味を推測し、すべての言葉や概念がわからなくてもコミュニケーションを楽しむと説明している。一方、「分析型」の人間は、クラスでは物事の細部、論理的分析、対照に注目する。

中国人学習者、日本語教師ともに、「包括型」傾向の方が「分析型」より強い。中国人学習者は「分析型」傾向も「包括型」傾向と同様のレベルで持っているが、日本語教師は強い「包括型」傾向を示している。

次に、項目ごとに見ていく。「包括型」では、日本語教師の方が有意に点数が高い項目は、「私は容易に情報をまとめられる」である。「分析型」では、「考えを細かな部分に分けて（考える）のが好きだ」「類似点より相違点を見つける方を好む」「概略を書くとき、たくさんの詳細な部分を含める」のすべての項目で、中国人学習者の方が日本人教師より有意に高かった。

## 5. 考察

Reid (1987) では、中国人学習者は強い「視覚型」で、かつ「聴覚型」「操作型」については両者に差のない「両型」であるとされているが、本調査でも「聴覚型」より「操作型」が若干有意傾向にあるものの、同様の結果が出た。Reid (1987) ではまた、日本人学習者は特定の知覚学習スタイルを持たないと判断されているが、本調査では、日本語教師は「視覚型」の傾向が強いという結果が出た。この結果は、中国人も日本人も文字として漢字を使用するので、視覚情報に頼る傾向があることと関係がありそうである。

Su (1995) は、中国人学習者を「内向型」に分類し、Harshbarger et al. (1986) も、日本人学習者は「内向的」傾向があるとしている。Oxford (1995) は、中国大陸の学習者と日本人学習者の学習プロセスは、儒教の影響を強く受けているとする立場から、私益より集団の利益を優先する儒教文化において、学習者は学習環境形成に参与する他の学習者に敏感に反応すると述べている。本調査では、有意差の確認された項目のみに着目すると、中国人学習者の場合にOxford (1995) が指摘するような「集団指向」的傾向が見られるが、全体の傾向としては、中国人学習者、日本語教師ともに「外向型」という結果となった。先行研究の多くが、国内ではなく海外で英語を学習する中国人や日本人に関する調査であること、「欧米人は『外向型』でアジア人は『内向型』」という従来のステレオタイプの見方が研究者の間にまだ残っていることなどが、こうした違いに影響を与えた可能性が考えられる。

Oxford & Burry-Stock (1995) は、台湾人、中国大陸の中国人及び日本人は部分的に「具体連続型」とであると報告し、板井 (2001) でも、香港における中国人学習者は、「教師主導の段階的文法積み上げ学習」を支持する学習ビリーフを持っていることが指摘されているが、本調査では、中国人学習者は「直観型」と「具体連続型」を併せ持つ「両型」であり、日本人は強い「直観型」で、必ずしも先行研究の結果とは一致しなかった。

Harshbarger et al. (1986) は、日本人は「閉鎖指向型」とし、Sue & Kirk (1972) は、アジア系学習者は「閉鎖指向型」傾向が強いことを指摘している。本調査でも、中国人学習者、日本語教師ともに「閉鎖指向型」傾向が「開放型」より強く、この結果は先行研究と一致していた。

Oxford & Burry-Stock (1995) は、中国人の学習スタイルは「分析型」だと報告しているが、Scarcella (1990) は、中国人学習者の思考パターンは、出来事や物事の調和を求める「包括型」であることを示唆している。本調査では、中国人学習者は「包括型」傾向が若干強いものの、「包括型」と「分析型」が同程度の「両型」である。Oxford & Anderson (1995) は、日本人は「分析型」として示しているが、本調査で日本語教師は「包括型」傾向を強く示し、「分析型」傾向は低く、先行研究の結果とは異なっていた。



## 6. まとめ

今回の調査結果から、中国人学習者と日本語教師の間に学習スタイルの差があることが明らかになった。両者の「活動2（人とのつき合い方の好み）」と「活動4（活動へのアプローチ）」における全体的な傾向は似ていたが、傾向が異なった活動部分は、両者の間に問題が起こりうる可能性を示唆すると同時に、日本語教師が中国人学習者に「どう教えるか」「どんなアプローチをどう組み合わせるのか」に関するヒントを提供するものであるとも考えられる。

まず、知覚の好みについて、中国人も日本人も「視覚型」であるが、中国人学習者は「操作型」傾向が強い。日本語教師が伝統的講義スタイルの授業を行っていても、特に目立った問題が起きないことから、教師が中国人学習者は「視覚型」だという評価を行い、教授スタイルを工夫しないでいると、中国人学習者は退屈してしまうことが考えられる。クラスで表面的には「何のネガティブな反応（問題）がない」というのは、「学習者が満足している」とことと同義ではなく、案外水面下で不満がくすぶっていることが往々にしてある。対策としては、ゲーム、ロールプレイ、クイズなどの活動を適宜授業に取り入れ、プロジェクト・ワーク的なタスクを組み込んで、学習者の主体性を引き出したり、創造性を刺激したりすることで、「操作型」傾向が強い中国人学習者が満足できる授業を構成できるのではないだろうか。

次に、中国人学習者は「直観型」も「具体連続型」傾向も強い「両型」であることから、日本語教師が発見学習を楽しく、ためになる活動であると考えて授業に積極的に取り入れても、中国人学習者がいわゆる「教科書中心の積み上げ型学習」をある程度重視している場合、学習者と教師の間に葛藤が起きる可能性が出てくる。筆者が香港で言語運用能力向上を目指したクラススタイルで日本語を教えていた時、詳細な活動の枠組みは与えず、学習者に自力で会話を産出していくように求めると、しばしば学習者が不安感から動揺する様子が見てとれた。学習者が自らの足で歩行できるようになるまで、クラス活動が今どこへ向かおうとしているのかを、消化しやすい形で導入していく必要があると考えられる。たとえば、具体的で段階的な手順を踏んだ計画やそれに基づいた活動のプロセス（流れ）を示したチャートをパワーポイントで示すだけでも、学習者の緊張感を解くのに役立つのではないだろうか。つまり、教師主導の「伝統的教授法」と「言語運用能力向上のための活動」をどうバランスよく組み合わせていくかが、クラス活動成功の鍵となるのである。

最後に、日本語教師は強い「包括型」であるが、中国人学習者は「包括型」傾向と同様に「分析型」傾向を併せ持つ。中国人学習者は、「すべての言葉や概念がわからなくても、コミュニケーションを楽しむ」が、また一方では、「ものごとの細部にこだわり、全体像をつかむのが苦手である」という相矛盾する傾向を持ち合わせていることを意味する。読解の授業で、日本語教師が香港の学習者に全体として何が書かれているのかをまとめるよう求めても、学習者は教師が不必要であると考えた細かい部分まで気にする結果、効果的な大意把握練習が行えなかったという声をよく耳にする。また、日本語教師が優れた学習者が積極的に使用する「補償ストラテ

ジー」を伸ばすような活動を授業に組み入れようとしても、学習者は細部にこだわるタイプで、わからない表現にぶつかるたびに、文を分解して一語一語調べるので、分析的なアプローチはやめるように指示すると、学習者が心理的に不安になったり、緊張を感じたりするようでは、指導効果は半減してしまう。教師が活動導入の前に、なぜ分析的アプローチが役立たないかについて、説明するような説得的アプローチを行う準備段階（セッション）を設ける必要があると思われる。

本調査では、香港における中国人学習者の学習スタイルを、日本語教師の学習スタイルとの比較を行いながら、明らかにしようとしたが、学習スタイルが、動機、学習ストラテジー、言語学習観（ビリーフ）などと相互にどのような影響関係にあるのかについての考察・分析には踏み込まなかった。これらの検討は、今後の課題とするつもりである。

## 注

- (1) ESLはEnglish as a second language（第二言語としての英語）の略。母語または母国語につぐ第二の使用言語として英語を学ぶ場合に適用される用語。日本語のように外国語として学ぶ場合はEFL（= English as a foreign language）と呼ばれる。
- (2) 日本語教師が勉強や仕事を行う時のスタイル。

## 参考文献

- Bean, R. E. (1990) Cognitive styles of Korean and Japanese adults learning English in the U.S. unpub. Master's.
- Harshbarger, B., Ross, T., Tafoya, S. & Via, J. (1986) Dealing with multiple learning styles in the ESL classroom. Symposium presented at the Annual Meeting of Teachers of English to Speakers of Other Languages, San Francisco, CA.
- Nelson, G. (1995) Cultural differences in learning styles. In J. Reid (ed.), Learning Styles in the ESL/EFL Classroom, Boston, MA : Heinle & Heinle.
- Oxford, R. L. (1990) Language learning strategies and beyond: a look at strategies in the context of styles. Middlebury, VT : North East Conference on the Teaching of Foreign Languages, pp.35-55.
- Oxford, R. L., Hollaway, M. E. & Horton-Murillo, D. (1993) Language learning styles : Research and practice considerations for teaching in the multicultural tertiary ESL/EFL classroom. System, 20, 4, pp.439-456.
- Oxford, R. L., (1993) Style Analysis Survey (SAS) Asserting Your Own Learning And Working Styles. (Learning Styles in the ESL/EFL Classroom (1995) に再録)
- Oxford, R. L. & Anderson, N. J. (1995) A crosscultural view of learning styles. Language Teaching, 28, pp.201-215.

- Oxford, R. L. & Burry-Stock, J. A. (1995) Assessing the use of language learning strategies world-wide with the ESL/EFL version of the strategy inventory for learning (SILL). *System*, 23, 2, pp.153-175.
- Oxford, R. L. & Lavine, R. (1992) Teacher-student style wars in the language classroom : research insights and suggestions. *ADFL Bulletin*, 23, pp.38-45.
- Reid, J. (1987) The learning style preference of ESL students. *TESOL Quarterly*, 21, 1, pp.87-111.
- Scarcella, R. (1990) Teaching language minority students in the multicultural classroom. Englewood Cliffs, NJ : Prentice Hall.
- Su, D. (1995) A study of English learning strategies and styles of Chinese university students in relation to their cultural beliefs and beliefs about learning English. Unpub. Doctoral diss., University of Georgia, Athens, GA.
- Sue, D. W. & Kirk, B. A. (1972) Psychological characteristics of Chinese-American students. *Journal of Counseling Psychology*, 19, pp.471-78.
- 板井美佐 (2001) 「中国人学習者の日本語学習に対する BELIEFS について—香港 4 大学のアンケート調査から—」『日本語教育』104号：日本語教育学会
- 江原有輝子 (1998) 「日本人日本語教師とメキシコ学習者の学習スタイルの違い」『日本語教育』96号：日本語教育学会

(資料)

Name : \_\_\_\_\_, Female/Male, Year : \_\_\_\_\_, Class : \_\_\_\_\_

Study Time : < 1 year, > 1 year, 2 year, 3 year, 4 year, > 4 year

Major : \_\_\_\_\_, Mother Tongue : \_\_\_\_\_

Self Evaluation (Be Honest) : Very Well, Good, Not Good, Poor, Very Poor, Not Bad

- 1 . I remember something better if I write down.
- 2 . I take lots of notes.
- 3 . I can visualize pictures, numbers, or words in my head.
- 4 . I prefer to learn with video or TV more than with other media.
- 5 . I underline or highlight the important parts I read.
- 6 . I use color-coding to help me as I learn or work.
- 7 . I need written directions for tasks.
- 8 . I get distracted by background noises.
- 9 . I have to look at people to understand what they say.
- 10 . I am more comfortable when the walls where I study or work have posters and pictures.
- 11 . I remember things better if I discuss them out loud.
- 12 . I prefer to learn by listening to a lecture or a tape, rather than by reading.
- 13 . I need oral directions for tasks.
- 14 . Background sounds help me think.
- 15 . I like to listen to music when I study or work.
- 16 . I can easily understand what people say even if I can't see them.
- 17 . I remember better what people say than what they look like.
- 18 . I easily remember jokes I hear.
- 19 . I can identify people by their voices.
- 20 . When I turn on the TV, I listen to the sound more than watching the screen.
- 21 . I'd rather just start doing things rather than pay attention to directions.
- 22 . I need frequent breaks when I work or study.
- 23 . I move my lips when I read silently.
- 24 . I avoid sitting at a desk when I don't have to.
- 25 . I get nervous when I sit still too long.
- 26 . I think better when I can move around.
- 27 . Manipulating objects helps me to remember.
- 28 . I enjoy building or making things.
- 29 . I like a lot of physical activities.

30. I enjoy collecting cards, stamps, coins, or other things.
31. I prefer to work or study with others.
32. I make new friends easily.
33. I like to be in groups of people.
34. It is easy for me to talk to strangers.
35. I keep up with personal news about other people.
36. I like to stay late at parties.
37. Interactions with new people give me energy.
38. I remember people's names easily.
39. I have many friends and acquaintances.
40. Whenever I go, I develop personal contacts.
41. I prefer to work or study alone.
42. I am rather shy.
43. I prefer individual hobbies and sports.
44. It is hard for most people to get to know me.
45. People view me as more detached than sociable.
46. In a large group, I tend to keep silent.
47. Gatherings with lots of people tend to stress me.
48. I get nervous when dealing with new people.
49. I avoid parties if I can.
50. Remembering names is difficult for me.
51. I have a vivid imagination.
52. I like to think of lots of new ideas.
53. I can think of many different solutions to a problem.
54. I like multiple possibilities and options.
55. I enjoy considering the future events.
56. Following a step-by-step procedure bores me.
57. I like to discover things rather than have everything explained.
58. I consider myself original.
59. I am an ingenious person.
60. It feels fine if the teacher or boss changes the plan.
61. I am proud of being practical.
62. I behave in a down-to-earth way.
63. I am attracted to sensible people.

64. I prefer realism instead of new, untested ideas.
65. I prefer things presented in a step-by-step way.
66. I want a class or work session to follow a clear plan.
67. I like concrete facts, not speculation.
68. Finding hidden meanings is frustrating or irrelevant to me.
69. I prefer to avoid too many options.
70. I feel it is useless for me to think about the future.
71. I reach decisions quickly.
72. I am an organized person.
73. I make lists of things I need to do.
74. I consult my lists in order to get things done.
75. Messy, unorganized environments make me nervous.
76. I start tasks on time or early.
77. I get places on time.
78. Deadlines help me organize work.
79. I enjoy a sense of structure.
80. I follow through with what I have planned.
81. I am a spontaneous person.
82. I like to just let things happen, not plan them.
83. I feel uncomfortable with a lot of structure.
84. I put off decisions as long as I can.
85. I have a messy desk or room.
86. I believe deadlines are artificial or useless.
87. I keep an open mind about things.
88. I believe that enjoying myself is the most important thing.
89. Lists of tasks make me feel tired or upset.
90. I feel fine about changing my mind.
91. I prefer simple answers rather than a lot of explanations.
92. Too many details tend to confuse me.
93. I ignore details that do not seem relevant.
94. It is easy for me to see the overall plan or big picture.
95. I can summarize information rather easily.
96. It is easy for me to paraphrase what other people say.
97. I see the main point very quickly.

98. I am satisfied with knowing the major ideas without the details.
99. I can pull together (synthesize) things easily.
100. When I make an outline, I write down only the key points.
101. I prefer detailed answer instead of short answers.
102. It is difficult for me summarize detailed information.
103. I focus on specific facts or information.
104. I enjoy breaking general ideas down into smaller pieces.
105. I prefer looking for differences rather than similarities.
106. I use logical analysis to solve problems.
107. My written outlines contain many details.
108. I become nervous when only the main ideas are presented.
109. I focus on the details rather than the big picture.
110. When I tell a story or explain something, it takes a long time.

このアンケート表は学習スタイルに関するものです。あなたのアプローチを代表する答えの数字に○をつけてください。

0 = 一度もない、1 = 時々ある、2 = よくある、3 = いつも

時間は30分間ですから、各項目にあまり時間をかけないで次の項目の質問に移るようにしてください。

男性／女性

職業 ( )

年齢：20代／30代／40代／50代／60代

1. 書くときによく覚えられる。
2. たくさんノートを取るほうだ。
3. 絵や数字や言葉を頭の中で映像化できる。
4. 他の方法よりビデオやテレビを使った学習の方が好きだ。
5. 読んだ重要な部分に下線を引いたり目立たせたりする。
6. 学習に役立つように色分けしたりする。
7. 仕事（作業）をするとき、書かれた注意書き（指示）が必要だ。
8. 周囲の雑音で気が散る。
9. 人が言っていることを理解するためには、その人の方を見る必要がある。
10. 自分が学習したり仕事をしたりする場所の壁にはポスターや絵があると、よりくつろげる。
11. 声に出して（人と）話すと、よりよく覚えられる。
12. 読むより講義やテープを聞いて覚えるほうが好きだ。
13. 作業（仕事）には口頭での指示が必要だ。
14. 周囲の音（BGM）は考えるのに役立つ。
15. 学習したり仕事をしているとき、音楽を聴くのが好きだ。
16. 顔を見ていなくても人が言うことは簡単に理解できる。
17. 人の外見よりその人が言ったことの方をよりよく覚えている。
18. 聞いた冗談を覚えている。
19. 声で人を識別できる。
20. テレビをつけるとき、画面を見るより音声を聞いている方だ。
21. （進むべき）方針に注意を払うよりすぐに何か始める方だ。
22. 仕事をしたり学習したりするとき、たびたび休憩が必要だ。
23. 黙読しているとき唇を動かす。
24. 必要ないときは机の前には座らない。



25. あまり長い間じっと座っていると、落ちつかなくなる。
26. 自由に動きまわれるとき、よりより考えが浮かぶ。
27. 何か物を使うと、(ManipulatingObject) 記憶に役立つ。
28. 物を作ったりすることが好きだ。
29. たくさん運動するような活動が好きだ。
30. 切手やカードやコインなどを集めるのが好きだ。
31. 他の人と仕事をしたり学習したりするのが好きだ。
32. すぐ新しい友達ができる方だ。
33. グループでいるのが好きだ。
34. 知らない人と話すのは平気だ。
35. 他の人の近況をよく知っている。
36. パーティでは最後まで残っている方が多い。
37. 新しく人と知り合うことでエネルギーが得られる。
38. 人の名前がすぐ覚えられる。
39. 友達や知り合いが多い。
40. どこへ行っても、いろいろな人とつき合うようにしている。
41. 一人で仕事や学習したりする方が好きだ。
42. 内気な方だ。
43. 一人でする趣味やスポーツが好きだ。
44. 私は人に理解されにくいタイプだ。
45. 友達は、私は人とあまりつき合わない人だと思っている。
46. 大きなグループの中では静か（無口）になりがちだ。
47. たくさんの人の中にいると、ストレスがたまる。
48. 知らない人と話したりするのが苦手だ。
49. できればパーティや飲み会は行きたくない。
50. 人の名前がなかなか覚えられない。
51. 私は想像力が豊かだ。
52. いろいろな新しいことを考え出すのが好きだ。
53. 問題に対してたくさんの異なった解決策を考えることができる。
54. 複数の可能性や選択肢を好む。
55. 将来のできごとを考えるのが楽しい。
56. 積み上げ式的（手順通りの）やり方に従うのは退屈だ。
57. すべて説明してもらいより自分で発見しながら行う方が好きだ。
58. 自分は独創的な人だと思う。

59. 自分は器用だ。
60. 教師や上司が初めの計画を変更してもかまわない。
61. 自分は経験豊富な方だと思う。
62. 私は現実的な人間であることを誇りに思っている（現実的なやり方で行う）。
63. 思慮深い人に心引かれる（常識的な人が好きだ）。
64. 新しくて検証されていない考えより現実的なことを好む。
65. 物事は段階的に一步一步進むのが好きだ。
66. 授業や仕事は、はっきりした計画に従って進んでほしい。
67. 推測ではなく、具体的な事実の方が好きだ。
68. 隠れた意味を見つけることはうまくいかないし、私には向かないと思う。
69. 選択肢がありすぎるのは避けたい。
70. 将来について考えるのは無意味だと思う。
71. 私はすぐに物事が決断できる方だ。
72. 私は計画的だ。
73. 必要なときはリスト（list）を作る。
74. 物事を行うときは、自分のリストを調べる（参照する）。
75. 雑然とした環境にいと、落ちつかない。
76. 時間通りか早めに仕事を始める。
77. 時間通りに場所に到着する。
78. 締切は仕事の準備計画をするのに役立つ。
79. 整然としているのが好きだ。
80. 私は計画通りに従う。
81. 私は思いつき（のびのびしたタイプの）人間だ。
82. 計画したりせず、成り行き任せが好きだ。
83. 杓子定規だといらいらする。
84. できる限り決定は先延ばしにしたい。
85. 私の机の上や部屋は雑然としている。
86. 自分にとって締め切りは不自然だし、役立つとは思わない。
87. 物事について先入観を持たないようにしている。
88. 楽しむ（楽しいと感じている）ことは最も重要なことであると思っている。
89. 仕事のリスト（list）があると、疲れるしあせってしまう。
90. 自分の考えを変えることについて抵抗がない。
91. あれこれ説明してもらいよりシンプルな答えの方が好きだ。
92. 細か（詳し）すぎると混乱しがちだ。

93. 関係がなさそうな些細なことは無視する。
94. 計画の全体像や全体図を見るのは簡単なことだ。
95. 情報を簡単に要約できる (summarize information)。
96. 何かをまとめる (paraphrase) のが得意だ。
97. 一番大切なこと (メイン・ポイント) がすぐわかる。
98. 細かい部分は別として、考えの大枠を知るだけで満足する。
99. 私は容易に情報がまとめ (pull together (synthesize)) られる。
100. 概略を書くとき、キー・ポイント (重要部分) だけを書く。
101. 短い答えより詳しい答えのほうが好きだ。
102. 詳細な情報を要約するのは難しい。
103. 事実や情報の特定の部分に注意を払う。
104. 考えを細かな部分に分けて (考える) のが好きだ。
105. 類似点より相違点を見つける方を好む。
106. 問題を解決するとき、論理的な分析を行う。
107. 概略を書くとき、たくさんの詳細な部分を含める。
108. 細部まで指示されていないと、いらいらする。
109. おおまかなものより詳しく細かいものの方に注目する。
110. 話をしたり何か説明するとき、時間がかかる方だ。

—ご協力ありがとうございました—